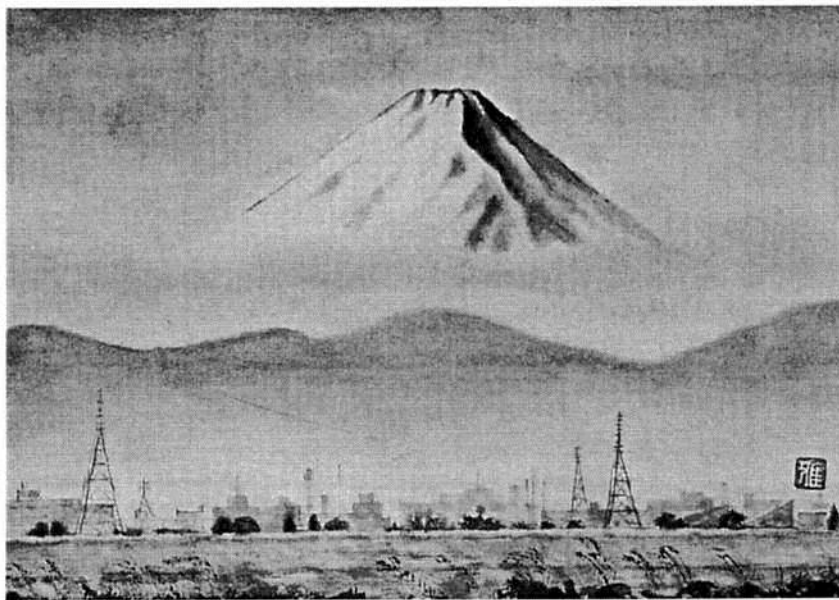


# 山流シルバー

第26号

発行／社団法人流山市シルバー人材センター  
〒270-0114 流山市東初石3-103-18 ☎0471-55-3669



流山市シルバー人材センター会長  
内田 弘

## 新世紀元年 課題解決に 全力傾注

21世紀の幕開け 流山市から秀麗富士を望む 志田雅業氏画

新世紀が始まりました。会員の皆様には平成13年の新春を、お健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、世紀をまたぐ変革の流れは加速し、社会の様相は一層複雑多様化してきております。この激変していく社会の中にあつて、シルバー人材センターもそれに対応できる態勢をつくっていくことが、私共に課せられた責務と考えております。

そのために、シルバーの執行部は、次の目標の上に立った課題解決に向けて全力を傾注しているところでもあります。

「センター事業の活性化」「地域に役立つシルバー人材センター作り」の二つを目標とし、次の五つを課題としております。

- 1 就業の在り方の基準づくりについて
- 2 役員改選要綱等の見直しについて
- 3 利用者等への接遇向上や満足度の追求について
- 4 入会待ち登録者の解消策の促進について
- 5 中長期を見通しての運営計画の策定着手について

以上の点は一朝一夕には解決できない面もありますが、シルバー人材センターの組織体制の充実強化に努めながら、会員の皆様の期待に応えられるよう努力して参る所存であります。会員の皆様には、このことについて一層のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

終りに皆様のご健康と安全就業を祈念申し上げます、ご挨拶と致します。



## 21世紀の超高齢社会における シルバー人材センターの課題

事務局長 高村 由

シルバー人材センターは昭和50年東京都江戸川区に高齢者事業団として誕生し、四半世紀となる。

この制度は、定年退職者が現役時代の経験と知識を生かし、就業をとおして社会に参加するもので、すでに地域に定着の感がある。

また、この制度は欧米にはなく、わが国特有のもので地域福祉にも貢献し果た

す役割も大きい。

しかし、シルバー人材センターも新世紀と共に超高齢社会に直面し重要な局面にある。当流山市シルバー人材センター

も今後10年後には、団塊の世代がシルバー人口となることは確実で、会員数はおよそ現在の2倍にもなると予想され、早晩、新たな対策が必要である。

このため第一には、会員数に見合う就業の場の確保である。困難性も強いが、就業の新規開拓を実施しない限り就業率の向上は望めない。

第二は、受託事業依存型から一歩脱却し、流山市の特色を活かした自主事業の開発である。

第三は、会員の就業のローテーションの導入である。第一の就業開拓と第二の自主事業の開発だけでは、未就労者は増加するのみである。就業基準の策定は緊急のものと考慮する。

第四は、ボランティア活動である。就業をとおして社会参加は勿論、就業を伴わないボランティアによる社会参加も重要な検討事項である。

紙面の都合で要点のみの提言となったが、今後、長期展望のもとに会員の総意として具体的、詳細な検討が必要である。

## 通常総会

平成13・3・13  
第35回

平成13年度事業計画  
平成13年度収支予算

社流山市シルバー人材センター  
第35回 通常総会々々場

(社)流山市シルバー人材センターの第35回通常総会が、去る平成13年3月13日(火)午前9時30分から初石公民館において開催された。

本総会は、新世紀に入つて初めての事業及び予算等を審議、決定するもので、慎重な面持ちの中、定刻どおり開会された。

総会は小池理事の司会進行で始まり、先ず、五十嵐副会

長の開会宣言。次いで内田会

長からは、新世紀にあたり、

「センター事業の活性化」と

「地域に役立つシルバー人材

センター作り」の二つを目標

とし、努力して参る所存であ

りますと、開会の挨拶があつ

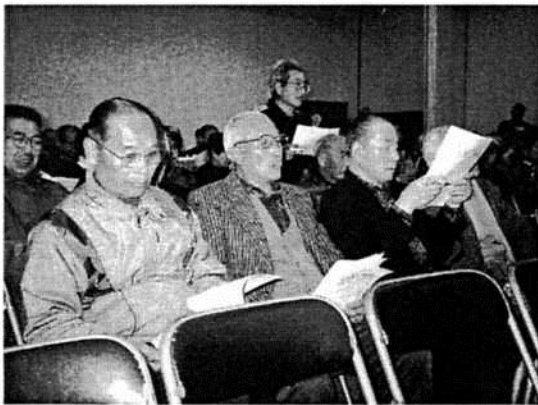
た。

その後、議長に第3地区の

楠本浩二氏が選出され、議事

に先駆け出席状況の報告があつ

た。



会員総数 四三六名  
 出席会員 三九〇名  
 うち委任状(表決委任者)  
 二〇〇名

で、会議は成立している旨の報告があり、次いで議事録署名人に、第1地区の松田明氏と第9地区の村松正也氏が選出された。審議に先立ち内田会長から、第1号議案定款の一部改正について他9議案の提案理由の説明があった。続いて議案について、高村事務局長及び根本所長から詳細な説明後審議に入った。その後採決の結果、全議案共賛成多数をもって原案どおり可決承認された。なお議案の主な内容は次のとおりである。

定款の一部改正については、高齢者等の雇用の安定等に関する法律の一部改正に伴い、従来の臨時的かつ短期的な就業に加え、その他の軽易な業務も就業の対象となったこと。センターの予算は、本年度



二四八、五三七千円で、前年度に比較して三、二七一千円(1.3%)の増。また、勤労者総合福祉センター及び勤労者体育施設の予算については、若干の増減となった。

会員互助会の予算では、約29%増となった。なお、互助会長から会員の旅行については、アンケートの結果を十分参考にして実施する旨の報告があった。

閉会午前11時45分

# 安全就業標語入選作発表

安全就業対策委員長 浦 壁 隆 雄

流山市シルバー人材センターの安全就業標語が誕生しました。

を肝に命じ、毎日の安全就業に取り組んでもらいたいのが、安全就業対策委員会の切なる願いです。

## 最優秀賞

安全就業は一人一人の意識から  
 小池 良男

## 優秀賞

安全就業は心と体の健康から  
 長 宏

「事故ゼロ」は我がシルバーの合言葉  
 吉野 芳矩

佳 作  
 指さして今日も確認無事故で  
 天沼 道信

す  
 シルバーの重ねた年輪無事故  
 の証明 高村 由

事故ゼロで今日も元気で生き  
 生きと 内田 弘

シルバーの心に宿る安全就業  
 永田 晟

就業は安全第一流山シルバー  
 内藤 清行

会員の皆様には、今後『安全就業は一人一人の意識から』

## シルバー講習会

### 植木剪定講習

まだ真夏の陽光が射す9月20日、シルバー人材センター登録者を主にした剪定講習を行った。当日受講者はコミュニケーションプラザ玄関前に集合。中園講師紹介の後3〜4人の班に分かれ、刈り込み鋏の使い方についての簡単な説明があり、早速紅カナメの垣根の刈り込み作業に入った。当初受講者の中には、鋏の



植木剪定講習に参加した皆さん

扱い方に戸惑う人もいたが、ベテラン会員の指導を受けながら序々に慣れていった。何しろ30度近い暑さだったので汗びっしょりの作業だった。10時に小休止、水分を補給した後、反対側の垣根の剪定に入った。初めての人も達も大分上達し、手際よく剪定できるようになった。垣根の剪定後、モチの木の剪定に入ったがここではキャタツの扱い方の指導を受けた。

午後は小鋏の指導を受けたながらカシの木の剪定を行った。植木の剪定について一通りマスターした後、チェーンソーの取扱いと起動の仕方を業者から習った。最後に講師から剪定について総括した話があった。15時に講習は終了した。

### 草刈り講習

植木剪定講習の翌日9月21日コミュニケーションプラザに於て、機械刈り講習会を開催した。受講生は登録者ばかりだった。



交替で草刈機の操作練習

井上講師から初めに草刈り機のエンジンの掛け方を教えていただき、それに基づいて全員で練習した。一通り理解できたところで、今度は草刈機を使つての刈り方を教わった後、2班に別れて傾斜のある草原で草刈りを行った。初めは慣れない機械を扱うので皆んなぎこちなく、しかもトラ刈りになってしまふことが多かったが、次第に慣れ動きや操作が良くなった。機械は人数分無いので交替で操作しながら作業をした。手の空いて

いる者は熊手で刈り取った草を集めるようにした。

午後は、草刈機の刃の取替え方を全員で練習した後、大きな草刈機の操作の仕方の指導を受けた。これも交替で実際に操作し、刈り方を学んだ。

この日も暑かったが、講習が終了したときは、どの顔にも満足感と早く仕事をしたいという表情が出ていた。

### 襖、障子張り講習

10月23日コミュニケーションプラザに於て、講師の小熊さん他助手3名、受講者多数、内田会長他事務局職員等の出席を得て、襖、障子張りの講習会を開催した。点呼後一階の和室2部屋を作業場として早速作業の準備に入った。ビニールシートを敷き、テーブルを並べて作業台とした。受講者5人1組として数組編成し、それに講師と助手が1名ずつ組に付いて受講態勢を作った。作業予定として各組が襖1枚、



真剣に取り組む障子張り講習

障子2枚ずつを張り替えることにした。

講師から作業工程毎の説明があつて、それぞれのテーブル毎の作業が始まった。講師の説明が明快なので、聞く側も疑問の余地なし、すぐ納得して作業を進めていった。皆んな真剣そのもの、しかし材料が紙を濡して扱うので慎重にならざるを得ない。昼食もそこそこに作業を再開、予定の14時を過ぎたところで作業も終り、後片付けをして15時には閉講となった。それにして今回は紅一点が加わつたためか和やかな講習会であつた。

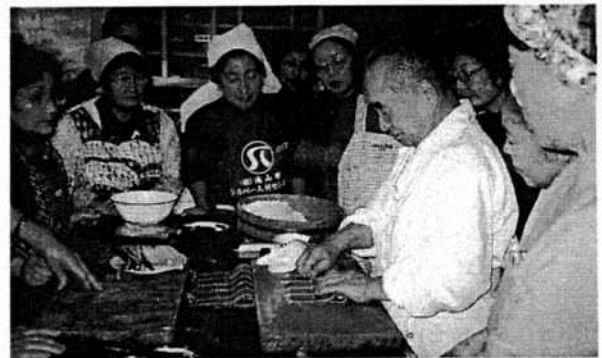
## 家事サービス

### 高齢者の為の料理講習

11月29日初石公民館に於て、家事サービス講習会の一つとして、料理講習会を開催した。当日は講師に大谷さんをお願いし、20名の会員と内田会長、事務局から加藤さん、錦織さんの二人の方も参加して、明日からの料理に活かせる講習を行った。

初めに内田会長のあいさつと講師の紹介があつた後、早速料理の準備に取りかかった。準備ができたところで、講師から予め作ってきてくださったレシピに従つて、下ごしらえや調理の手順について詳しい説明があつた。皆さんがよく理解できたところで、4、5名ずつ調理台を囲んで調理にかかった。

今回のメニューは“メカジキのソテーイタリヤ風”、“根菜のふき寄せ煮”である。“メカジキのソテー”はバル



料理講習でののり巻実習

サミコ酢を使ったものである。テレビ等の調理ではよく使っているが、私達が調理に使つたのは初めてである。いつもの魚のソテーとは一味違った味となった。

“ふき寄せ煮”は一般家庭でもよく作る料理であるが、今回の講習では下ごしらえの重要性や仕方がわかり参考になった。また、仕上りも大変美味しくできた。

試食後、今回の予定になかつたのり巻(細巻)の巻き方を講師の大谷さんのご好意により懇切なご指導をいただきながら、それぞれ2本ずつ練習した。

手際よく進んだためか予定時間前に終了した。

家事サービスは個々に行く仕事であるので、仲間と会う機会が限られている。従つてこのような講習会で、試食しながら話し合うことも今後の仕事の上で参考になった。また、今回の中心である料理についての考え方も、これからの仕事をしていく上で大変参考になった。

参加者募集のときから、今回の講習会については好評で、希望者が多かつたのであるが、会場の関係から人数制限をせざるを得なかつた。今回参加できなかった人たちのためにも、また家事サービスを更に進めていく上でも、次回も是非設定していきたいと考えている。

## 職場紹介

発注者から

信頼される植栽に

班長 中園 利男

植栽には二十数名の会員がいる。その会員を二、三名ずつの班に編成し、市内全域の一般家庭の剪定を主に行っている。他に垣根造りや花壇造り、また人力で移動できる範囲の移植等の作業もしている。発注から作業までの手順は、

まず事務局から依頼書を受けた班長は依頼主と交渉し、値段が成立すれば予定表を作成し依頼主に連絡する。そして作業日が確定したら再度連絡してから作業に掛かる。更に当日は剪定方法を再確認し、安全第一で作業に従事する。

一般の業者と違い少しでも安い金額で施行するように心掛けていますが、安いから手を



松の剪定

抜くようなことは決してしない。一人前の技術者として恥ずかしくない作業をモットーに、依頼者から喜んでもらえるように努めている。発注者が増加してきているので、植木の手入れに意欲のある会員の参加を望んでいる。

最近ラティス垣根に切替え季節の花の鉢物を掛け、下には小さな花壇造りをする家庭が多くなってきている。21世紀はラティス化傾向の垣根が流行すると思われる。我々も時代に負けないように技術を習得し、発注者から信頼される植栽にしていきたい。

## 西深井福祉会館の素顔

班長 相庭 泰雄

遙かに利根運河が望まれる西深井の地に福祉会館が設立されたのは昭和五十三年。それから二十有余年経た今「コミュニケーションで素晴らしい街づくりを！」の声の実現しつつある。

会館は敷地約四一〇坪、建物は八五坪で舞台付四〇畳の大広間、和室、会議室等のある施設である。また敷地南面の館庭には桜の巨木があり、庭の一部を耕やして作った花壇には四季折々の花が咲き、私達を和ませてくれる。

利用される人たちは老若男女様々のグループがあるが、時にはヨチヨチ歩きの姿もみかけ、微笑ましい。

本施設に就労する会員は5人で、主業務は施設と環境の管理保全、及び運営に携わっているが、特に利用者への接



西深井福祉会館

遇に配慮しながら交互に勤務している。

時には部屋から洩れてくる楽しそうな笑い声や歌声、研修や会議での真剣なやりとりの声を聞くと本施設に勤務している喜びを感じる。また、先日ある勉強会に参加した利用者の一人が「こない所々で勉強できてありがたい」とつぶやきながら玄関を出ていった姿を見たとき、これからも利用者に喜んで利用してもらえ会館にしたいと誓う毎日である。

# 互助会研修の旅

## 北茨城地方の見聞を広める

初秋の9月25日～26日の二日間にかけての五浦温泉への研修の旅だった。

流山東部公民館等の集合場所に朝8時に集合し、総勢36名が京王観光バスの美人ガイドさんとドライバーに迎えられて、流山ICから第一の目的地の竜神大吊橋へ向かって



竜神大吊橋

上原 一郎（鱒ヶ崎）

出発した。出発当初はお互いになんとなく遠慮があったが、車内カラオケが始まった頃から会話や野次が活発になり、和やかな雰囲気になった。初めて対面した同士の間でも徐々に目に見えない心の触れ合いが感じられるようになった。

これが互助会が目的とする親睦だと思った。

竜神大吊橋に着き記念写真など撮った。竜神大吊橋は歩道橋としては日本で、竜神川を堰止めた竜神ダムの上に架けた歩行者専用の橋である。橋長375m、幅員3m、湖面からの高さ100mの大吊橋で、橋の上からの景観は雄大なパノラマが広がっていた。

次の目的地の袋田の滝で昼食を和気あいあいの中で摂っ



互助会研修の旅に参加された会員の皆さん

た。袋田の滝は巾73m、高さ120m、四段に落下する所から別名四度の滝と呼ばれ、日本三大名瀑の一つであり、四季折々に織なす滝の造形は、心のやすらぎと感動を与えてくれる。又、袋田の滝のトンネルは昭和54年に完成され、長さ276m、高さ3m、幅員4mで観瀑台まであり、素晴らしい滝が観賞できる。当日は水量も多く見ごたえがあったが、風が強くて水飛沫が霧状になって吹きつけて、早々に引きあ

げる有様だった。

次の五浦海岸六角堂の見学は生憎と休館で、バスガイドさんの説明を聴きながら車窓から眺めるだけだった。六角堂は岡倉天心が瞑想に耽けるために建たとのことである。

宿となる五浦温泉の五浦観光ホテルは、太平洋に面し眺望豊かな各室であった。夕食懇親会は盛況で、歌手ばりに歌う人たちのカラオケを聴きながら歓談して終わった。

二日目は、ホテル前で記念撮影後に出発、お菓子博物館の「あさ川」を見学、大洗にて昼食し、那珂港に寄り買物をして無事流山に帰着した。帰途はそれぞれお土産や買物の品で、観光バスは買物ツアーの観を呈し、互いに品定めのお笑いの中での道中であった。互助会の幹事さん及び関係の方々のご苦勞に心から感謝すると共に、これからも機会ある度に会員相互の触れ合いを深めていきたいと思っている。

## 巳(蛇)年の抱負

新世紀は「鬼が出るか蛇が出るか」予想もできませんが、計画は現実の上に立って、あまり欲張らずに、蛇稽古(三日坊主)に終わらないように。「盲、蛇を怖じず」の冒険は慎み、藪をつついて蛇を出してしまうような後遺症を残さぬようにしたい。かといって「蛇に見込まれた蛙のよう」に縮みこまっては何も始まりません。「蛇は竹の筒に入れても真っすぐにならぬ」画一的な型にはまった計画や実践でなく、個性や才能を重視した必要なものを取り入れて進んで行きたいものです。迷信かもしれませんが蛇の衣(抜け殻)を財布に入れておくと、お金がたまるそうです。ともあれ、辰年から巳年となった本年、何事も竜頭蛇尾に終わらないよう心して行きたいものです。



## 斉藤六郎

1. 昭和4年3月2日生
2. 4地区
3. 福島県出身
4. 陶芸、ハイキング
5. 健康第一



## 高橋忠文

1. 大正6年4月24日生
2. 7地区
3. 山梨県出身
4. 園芸
5. 2001年に巡り合わせた巳年生れの幸運。今年も無事故で頑張りたい。



## 田坂邦文

1. 昭和4年3月7日生
2. 6地区
3. 愛媛県出身
4. パソコン
5. 囲碁



## 芝田一郎

1. 昭和4年1月10日生
2. 4地区
3. 東京都出身
4. ウォーキング、旅行
5. 新世紀を迎えて、健康を維持し毎日元気で働きたい。



## 巴知春

1. 昭和4年3月30日生
2. 7地区
3. 長野県出身
4. 読書、囲碁
5. ① 会館利用の方に

親しまれる管理人 ② “今”(現在)を大切に同僚との和を計る。



## 臼倉章介

1. 昭和4年1月25日生
2. 7地区
3. 千葉県出身
4. 釣り
5. 健康で毎日元気だが

んばりたい。



## 浅川善夫

1. 昭和4年5月5日生
2. 10地区
3. 茨城県出身
4. カラオケ、野草ガーデン
5. 健康増進のため散策にはげみたい。



## 染谷實

1. 昭和4年2月13日生
2. 5地区
3. 千葉県出身
4. 庭いじり
5. 私は一茶館に入って

6年目になるが、去年私より年の多い人が入って来たので、80位まで頑張りたい。



# 會員の皆さん

## 日生れの皆さん

1. 生年月日
2. 地区名
3. 出身県
4. 趣味
5. 抱負、やりたいこと



### 細田 隆三

1. 昭和4年10月20日生
2. 3地区
3. 東京都出身
4. 園芸・卓球・カラオケ
5. 今年も健康で、職場

の皆様と協力し、利用者から愛される施設にしていきたい。



### 上原 一郎

1. 昭和4年6月10日生
2. 9地区
3. 東京都出身
4. 日曜大工
5. 友人と美酒を酌み交

わしたり、名所めぐりの旅行をしていきたい。



### 千葉 馨基

1. 昭和4年11月4日生
2. 2地区
3. 宮城県出身
4. 温泉旅行、釣り
5. 健康で働ける事は私

の最高の宝、今年もお客様に喜ばれる仕事を続けて行きたい。



### 松崎 亮司

1. 昭和4年7月5日生
2. 6地区
3. 千葉県出身
4. 園芸、スポーツ
5. ① 健康を第一目標とし、毎日楽しく仕事を続けたい。② 中国語の学習。



### 興野 宏

1. 昭和4年11月12日生
2. 10地区
3. 茨城県出身
4. パソコン、ドライブ、飲酒?
5. パソコンのワード、エクセルを完全

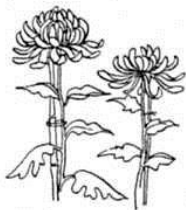
マスターしたい。



### 金澤 克郎

1. 昭和4年8月23日生
2. 3地区
3. 長野県出身
4. ゴルフ、囲碁
5. 7年間続けた雨天以外

の午前4時からの早朝散歩を今年も実施したい。



### 宮崎 喜美子

1. 昭和16年9月14日生
2. 9地区
3. 千葉県出身
4. ハイキング
5. ハイキングの会があったら入会して、月に1回位山歩きがしたい。



### 由良 芳枝

1. 昭和4年9月7日生
2. 8地区
3. 東京都出身
4. 観劇、舞踏、旅行
5. 未定

# 会員の広場

## 高 齢 化

橋本 喜一(南流山)

老人と言う名称は、その年齢の域に達しても感覚が湧かない。だから老人何々と名称を使っているものには敬遠してしまう。それは若いとき老人に対するイメージが良くなかったからかも知れない。しかし高齢化が進み百歳を越える人が一万三千人以上と聞けば、高齢化社会の現実から逃れることは出来ない。確かに最近高齢者の姿がいたるところで目につく、今迄女性の分野とされていたところにも男性高齢者が入って来た。こうした現実をみると老人のイメージが悪いなど言っ

ておれない。そうした考えであれば社会の隅に追いやられてしまうかも知れない。

老人高齢者の権利を主張するならば、老人の自立である。社会との関係を断ち、知人友人とも疎遠となり、家から出ないで、孤独を愛するなどと言っているのは詭弁で逃避でしかない。

老夫婦が四六時中、向き合っているならば、目が外に向かず相手の欠点をみて生活しているようなもので健康的でない。折角この世に生まれてきた以上、生きて来て良かったと言う人生でありたい。それには長続きする趣味をもち、仲間をもち、現役時代の栄光や、男の沽券を捨て、ボランティアでもよい、社会との関係をもち健康であることである。その意味ではシルバー会員など良い方法である。今迄老後は余生と言った。いまや老後は第二の人生である。

## 日本百名山への想い

高橋 資郎(平方)

五十歳近くになって、見よう見まねで始めた山歩きだったが、すつかりのめり込んで二十数年になる。初期は専ら日帰りの低山歩きだった。そのうち次第に、より標高の高い山をと、奥秩父、八ヶ岳、アルプス等へとエスカレートしていった。山行きを重ねるうち、多くの人達と触れ合うことも出来た。そしてそこではしばしば話題になったのが深田久弥の「日本百名山」だった。すでに完登したという幾人かの人達にも出会い、彼等の影響で私もいつしか百名山指向が強くなっていき、登山エリアも全国的に広がった。

百名山に限らず、過去登った山には、それぞれに思い出がある。中でも北海道の「トムラウシ山」、層雲峡から入り、豊富な残雪と広大なお花畑に彩られた表大雪の幾つもの嶺を越えて、四日目にして憧れの山の頂に立った時は、震える程の喜びと感動を覚えた。昨年の斜里岳では、途中雨となり、下山時の沢歩きで増水に脅え乍らやつの思いで下山した。

百名山指向派に対して「他人の選んだ山をなぞって何の意味がある。」とさめた見方もある。だが私にとっては、人生の大きな励みであり、喜びでもある。残り21座、年齢(72)を考えると完登はもう無理かもしれない。

しかし、体力の続く限りは、これからも「日本百名山」にこだわりを持ち続けたい。それが明日への活力につながるように思えるのである。

俳句・短歌

小春かな一葉井戸の残る路地  
農曆添えある日記選びけり  
あずまやに今朝も来て鳴く初雀  
美しき楷書の絵馬や初天神

松田 明 (平方)

初春や全てを託す新世纪  
時告ぐるチャイムの音色日脚のふ  
グランドの子等口ずさむ早春賦

楠本浩二 (富士見台)

葉の形おぼえし孫と芹をつむ  
あきらめて帰る川辺の若菜かな

豊川智子 (東深井)



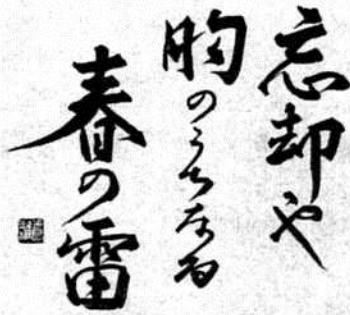
紅葉狩り上り下りの溪谷美  
名瀑を訪ねて味わう茸飯  
落日の彩鮮かよ鱒雲

大野和子 (野々下)

新世纪家族で祝う元旦に  
つくば博よりカプセル年賀  
まだ明けぬ自転車整理息白く  
厳寒の中で啓蟄を待つ

青木啓次 (江戸川台西)

相庭 泰雄  
(江戸川台西)



書画

内藤 清行  
(三輪野山)



野菜



大谷 喜一郎  
(江戸川台東)



不動明王

小池 良男  
(富士見台)



# 事務局便り

## 会員互助会研修旅行

### アンケート調査結果について

去る2月19日付けで互助会員の皆様に、研修旅行に関するアンケート調査を実施いたしました。

対象者四三六名に対し回答者二一四名で、回答率七二パーセントでした。内容は、

※研修旅行についてどう思うか。については、

◎今後も実施すべき一九九名、七八パーセント。

◎実施の必要はない五六名、二二パーセント。

従って引き続き実施希望者が多数であった。

※会費（参加者個人負担）については一〇、〇〇〇円が最も多く九〇名、四八パーセント。また不参加の方には、※不参加の理由の問いに対し、勤務の都合のため六一名、

四〇・六パーセント。  
※その他、行き先、実施時期等の貴重なご意見等、アンケートの結果を踏まえて参考に今後慎重に検討して参りたいと思います。

## 会員の動き

（平成十二年九月一日  
～平成十三年二月末日）  
新入会員 三十五名  
退会員 十四名  
総会員数 四百三十六名

## 行事予定

平成十三年度前半の行事  
計画は左記のとおりです。

五月 役員会  
総会  
六月 役員会  
千葉県シルバーの日  
七月 理事会  
安全就業強化月間  
九月 理事会

**おくりやみ申し上げます**  
平成十二年十二月死去  
前田 近徳さん（若葉台）  
謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 地区別の会員数

地区別会員数は次の通りです。あなたの所属区を確認して下さい。

区	町	名	合計
1	西深井	平方・美原他	39
2	東深井	こうのす台	58
3	江戸川台西	富士見台他	33
4	江戸川台東	駒木台・青田	36
5	西初石	若葉台・下花輪他	45
6	東初石	駒木・美田・十太夫	49
7	流山1	9・平和台・加・三輪野山他	60
8	野々下	長崎・芝崎他	31
9	南流山1	8・西早井・鱒ヶ崎他	58
10	向小金	松ヶ丘・名都借他	27
計			436

（2月末現在）

## 編集後記

新しい世紀が始まったが、これからは更に高齢化が進むことが予想される。それに伴ってシルバー人材センターの果たす役割はますます重要になってくる。このことを考えたとき、私共広報編集委員は一層身の引き締まる思いがしている。なぜなら、広報はセンターと会員の皆様とをつなぐ役割をしているからである。そこで先ず、皆様に喜んで読んでいただける広報にしていきたいと考えて26号の編集に取り組んだ。しかし、まだまだ力不足でご期待に応える内容になっていない面が多々ある。どうか皆様の忌憚のないご意見、ご感想をいただきたい。そして今後の改善に役立てていきたい。

### 編集委員

小池 良男 鈴木 信義  
紅谷 幸夫 桂川 郁雄  
荻原 節子 塚田 正信